

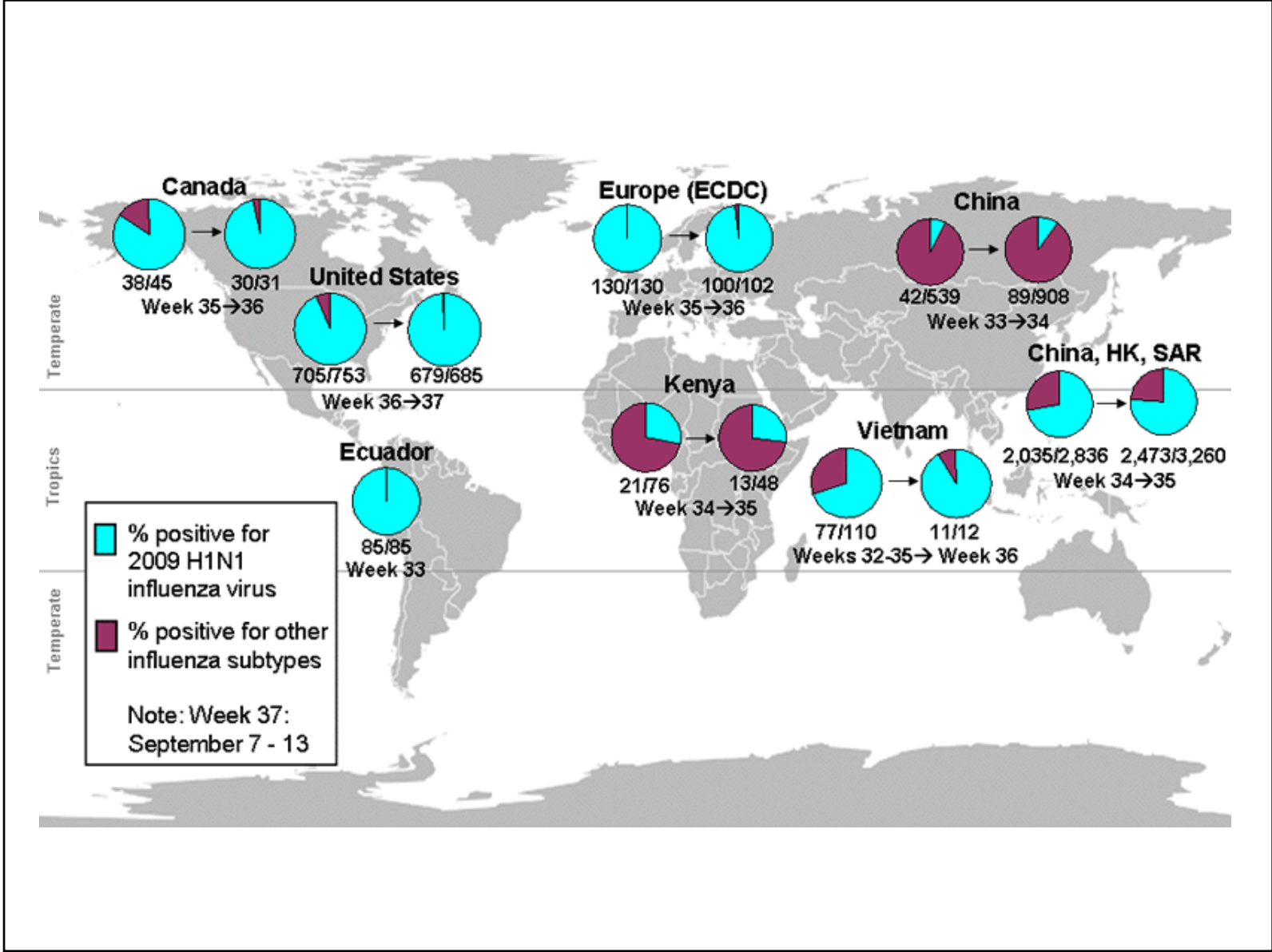


# 新型インフルエンザに係る全学説明会

旭川医科大学  
呼吸器センター・感染制御部  
大崎能伸

2009. 10. 6

地域名	累積総数	9月6日まで
	症例数	死亡例
WHOアフリカ地域	6336	35
WHOアメリカ地域	120653	2467
WHO東地中海地域	9844	51
WHOヨーロッパ地域	49000<	125<
WHO東南アジア地域	22387	221
WHO西太平洋地域	69387	306
総計	277607<	3205<



# WHO:第二波への準備 9/15

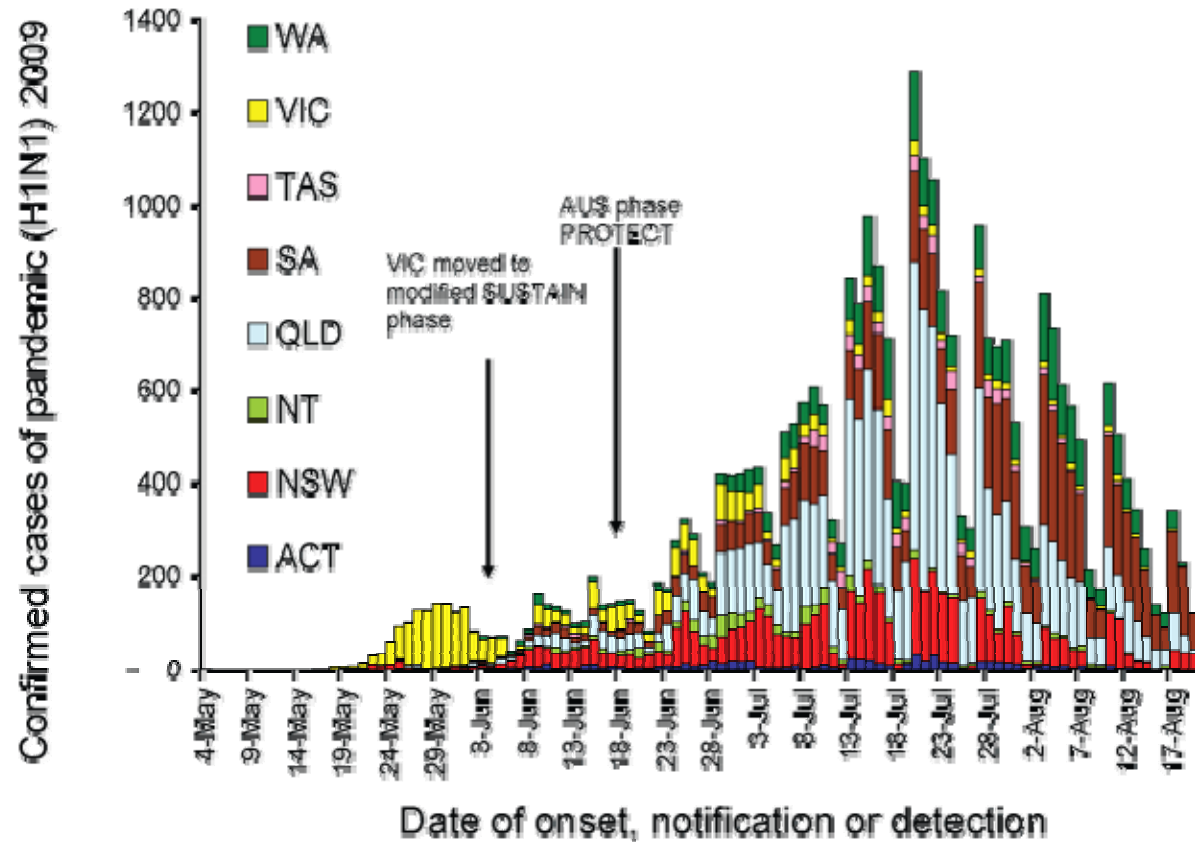
- ・ H1N1ウイルスが現在の主流
  - 今後も継続, 病原性同じ, 症状同じ, 死亡少数
- ・ 多くの人が感受性
  - 第二波でインパクトが悪化, 医療に大きな負荷
- ・ 薬剤耐性株の監視
- ・ 季節性インフルエンザと別物
  - 重症例, 感染者が若年者に多い
- ・ 重症呼吸器症候群
  - 健康な人でのウイルス肺炎が多い
- ・ 影響が大きいグループ
  - 妊娠中, 呼吸器とくに喘息, 循環器, 糖尿病

表 1：新型インフルエンザウイルスの流行

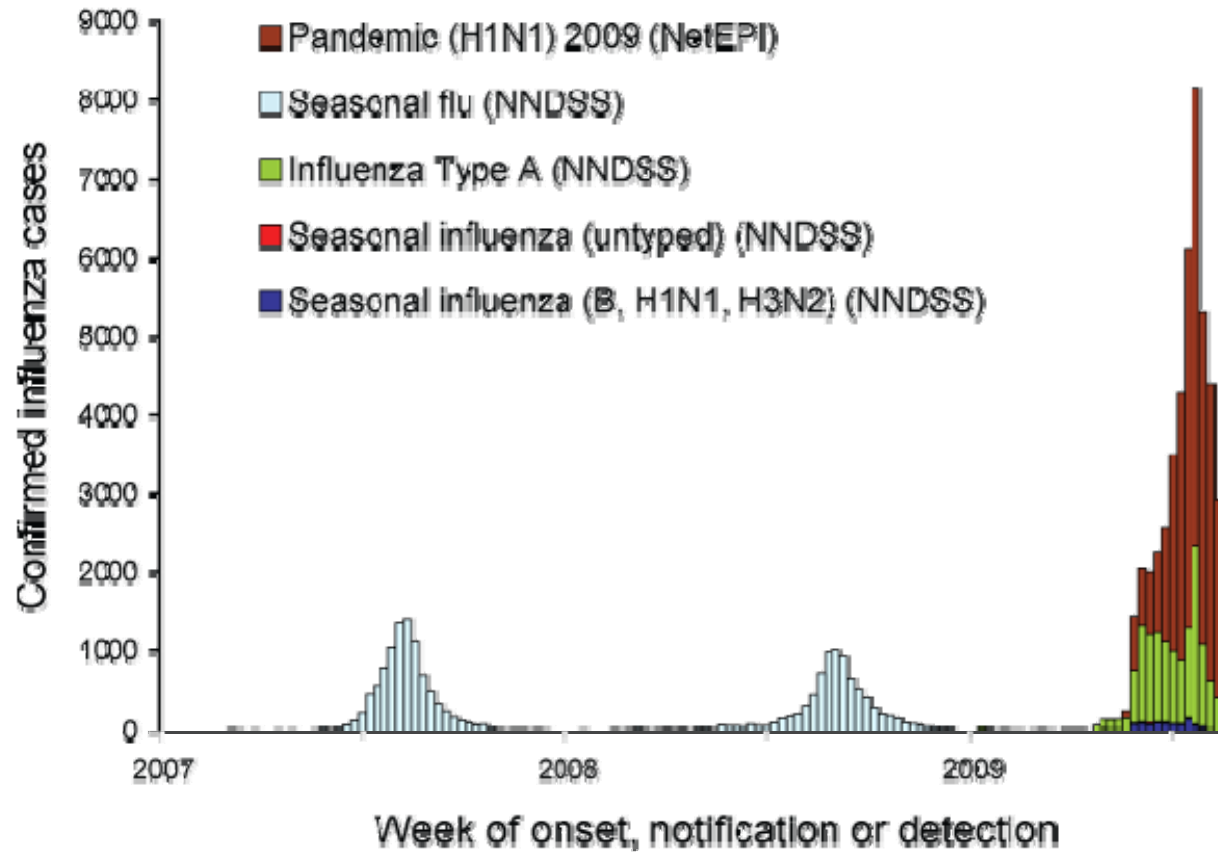
	スペインかぜ	アジアかぜ	香港かぜ	新型 A(H1N1)	鳥型 インフルエンザ
出現年	1918年	1957年	1968年	2009年	2003年
ウイルス亜型	A(H1N1)	A(H2N2)	A(H3N2)	A(H1N1)	A(H5N1)
死亡者数(万人)	5,000~6,000	200	100		
致死率	1~2%	0.1%	0.05%	0.4%*?	60%以上

\* メキシコ 6,000~32,000人が感染

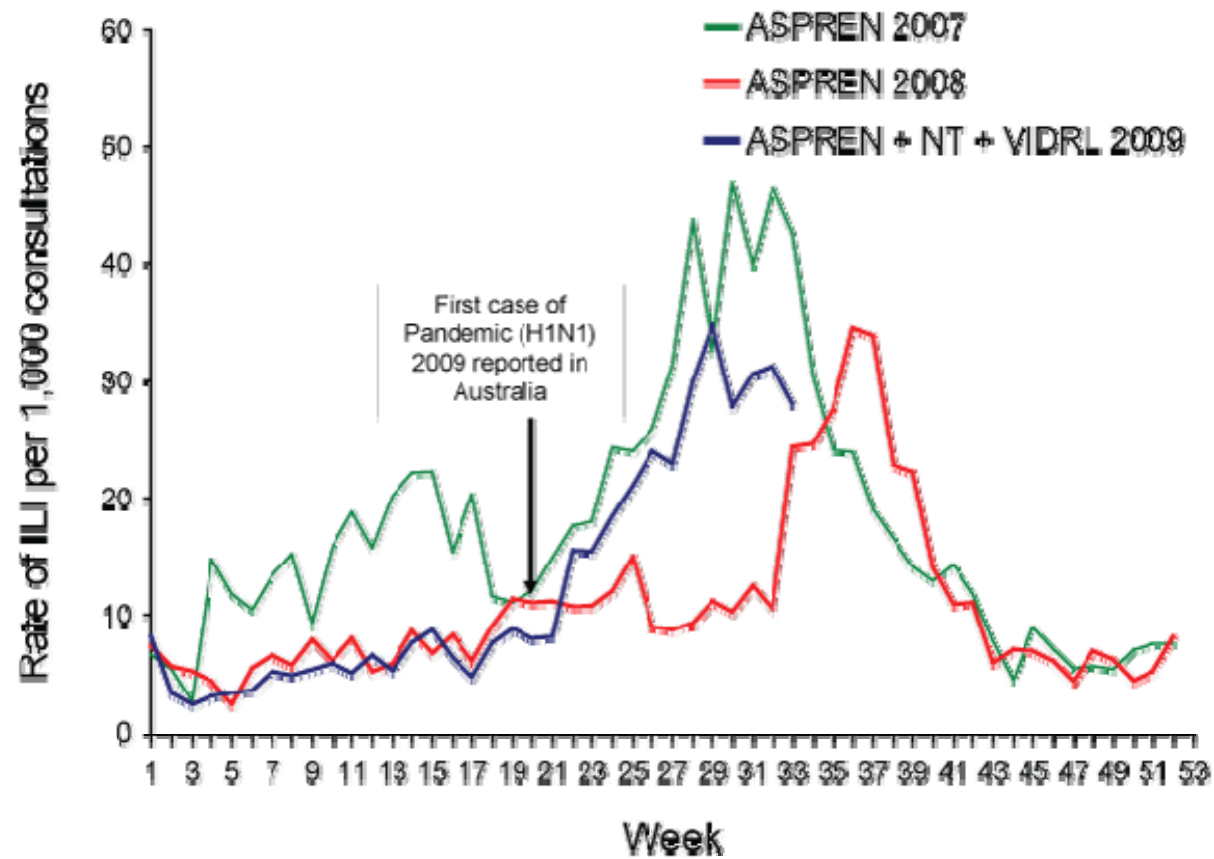
# 豪州:2009シーズンのインフルエンザ



# 豪州:シーズン別インフルエンザのタイプ

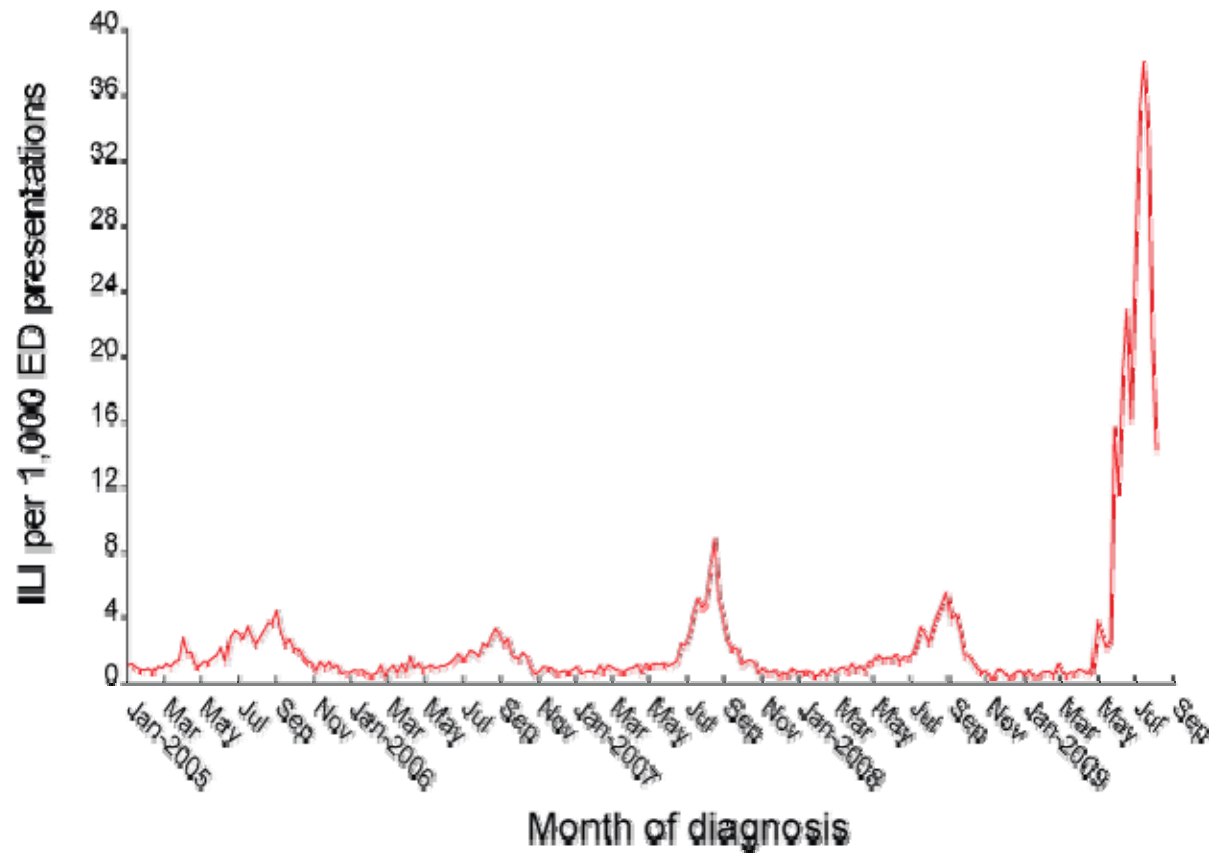


# 豪州:2009シーズンのインフルエンザ様疾患患者数

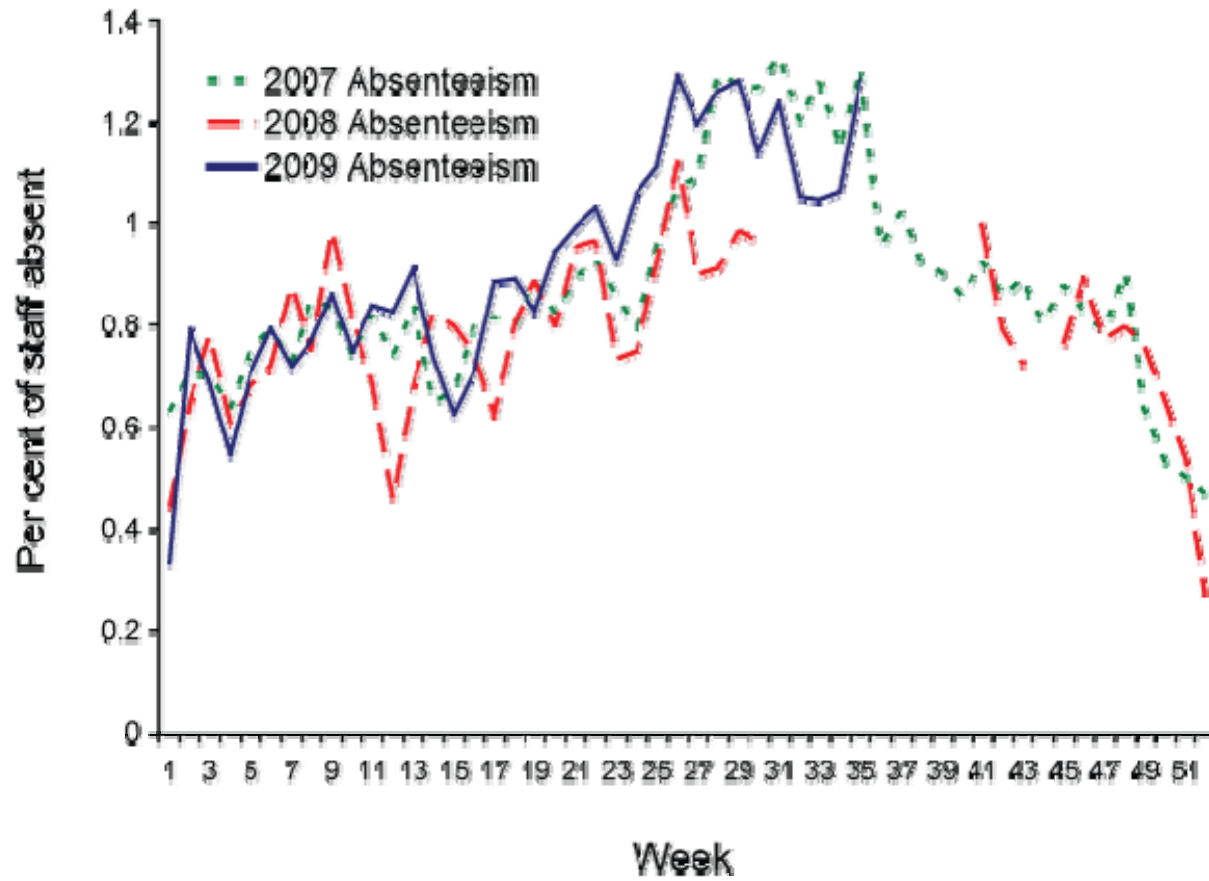




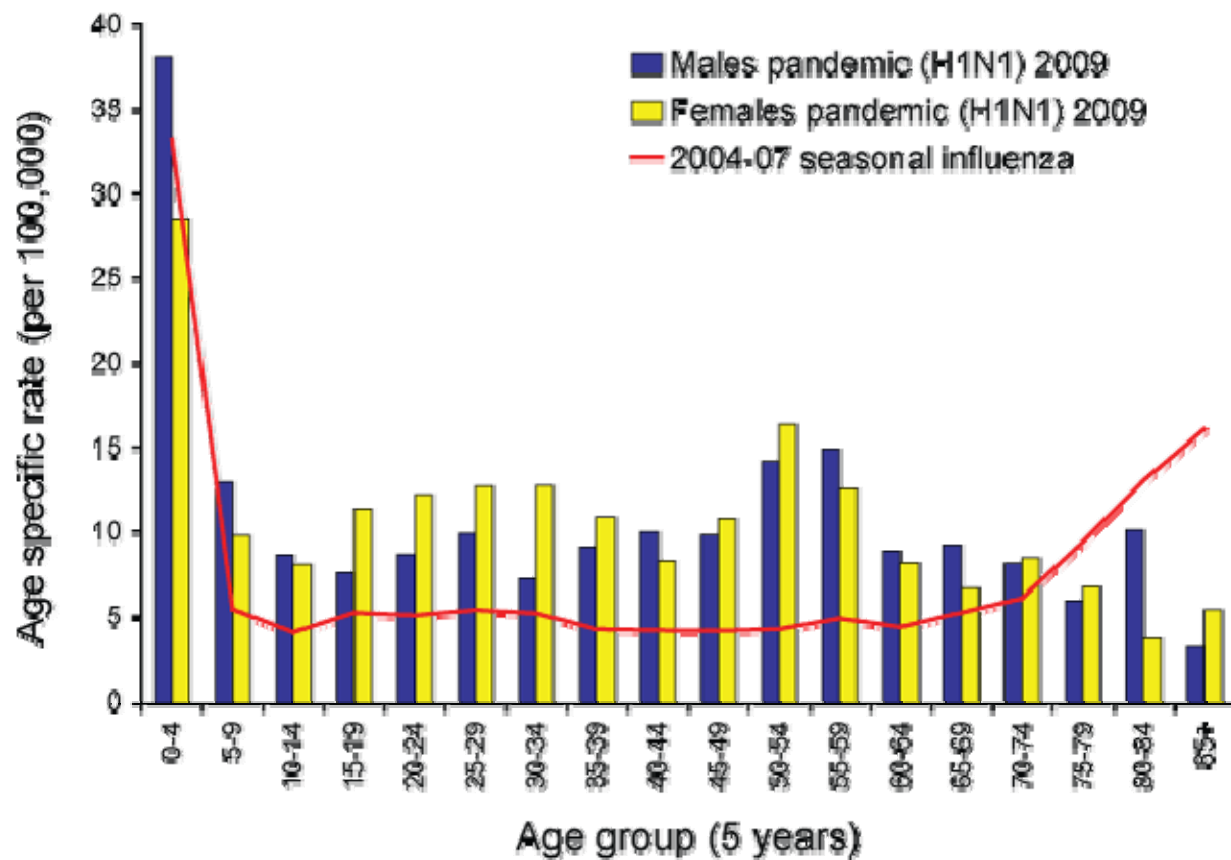
# 豪州:2009シーズンのインフルエンザ様疾患 救急病院の受診者数



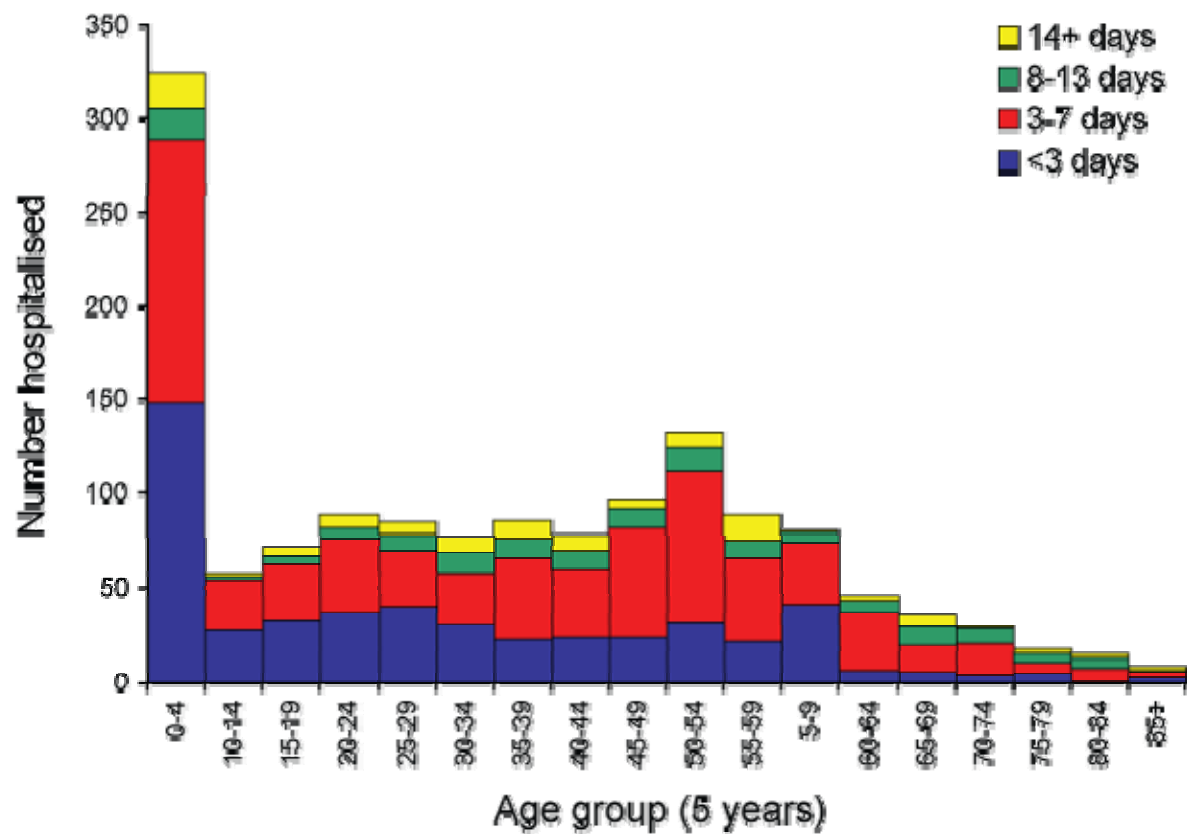
# 豪州:2009シーズンの欠勤者割合



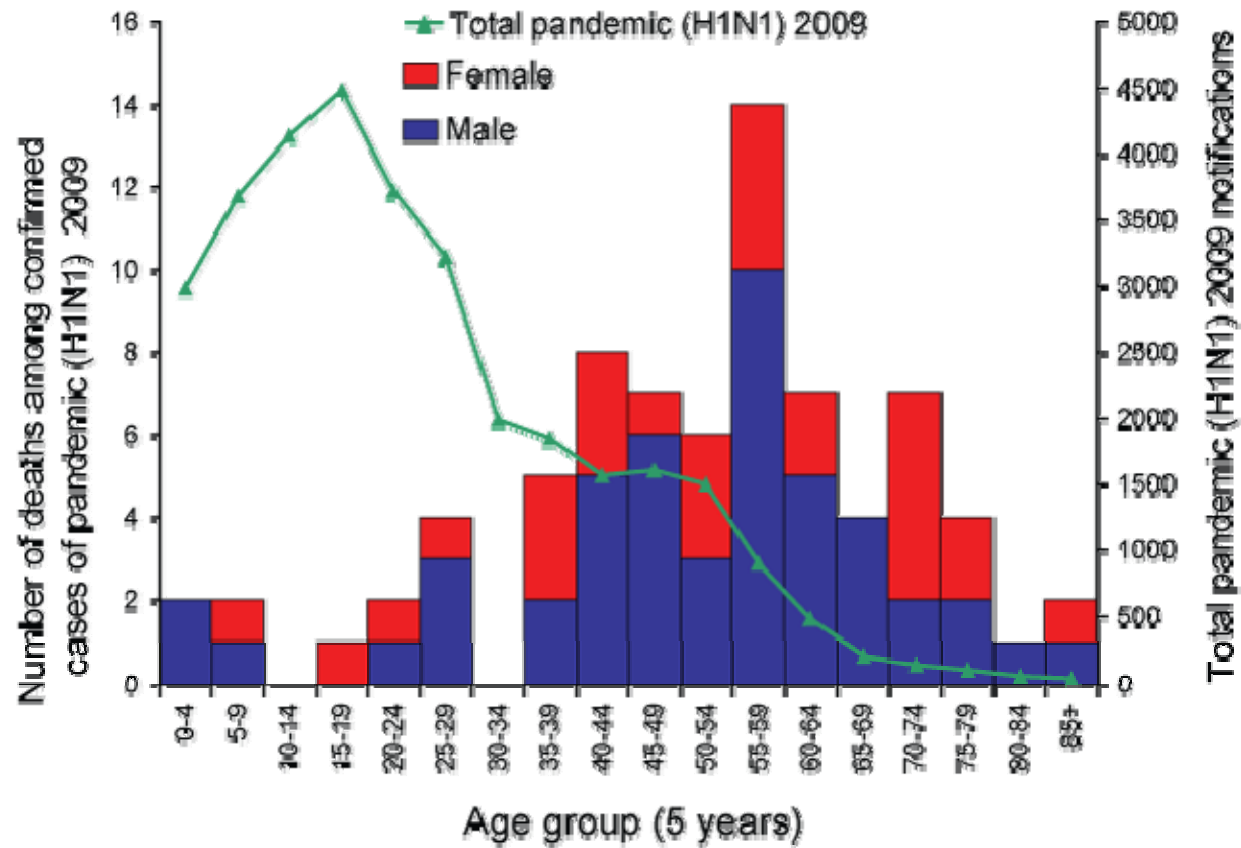
## 豪州:2009シーズンのインフルエンザ年齢別患者数



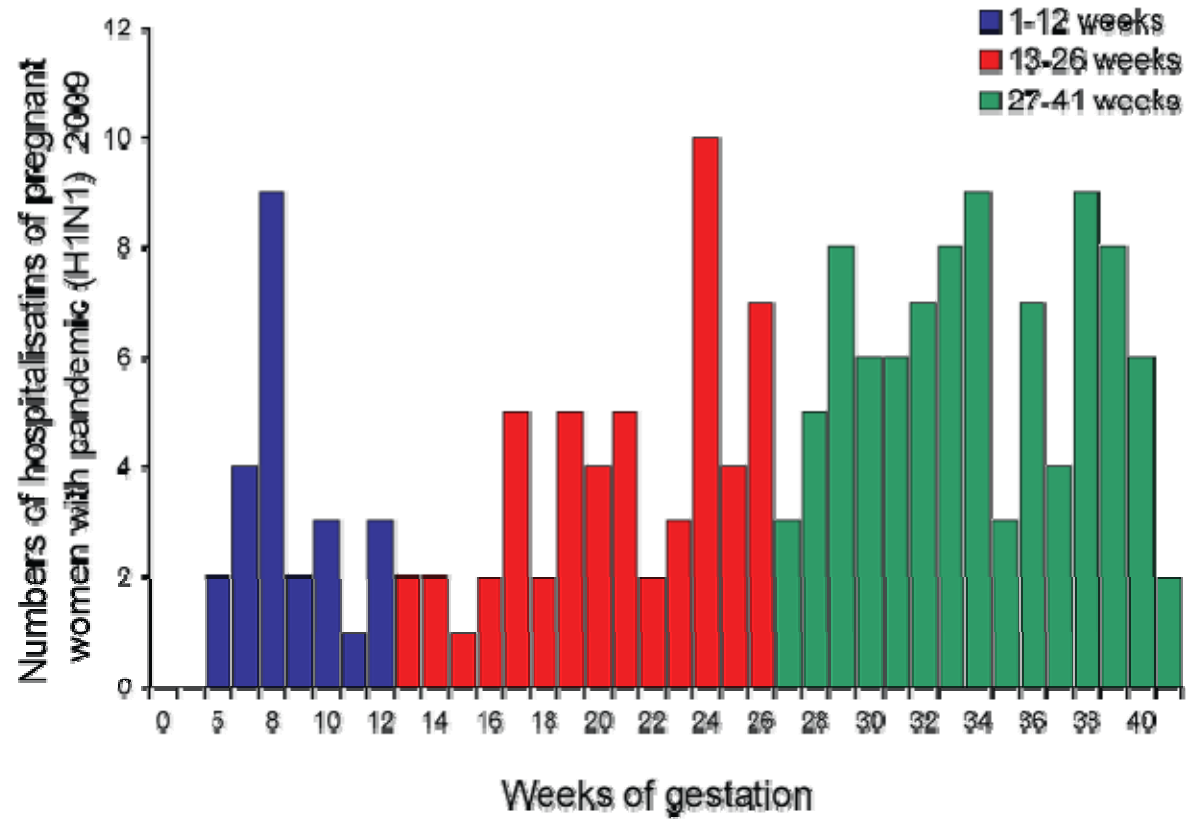
# 豪州:2009シーズンの年齢別入院患者数



# 豪州:2009シーズンの年齢別死亡者数



# 豪州:2009シーズンの妊娠週別入院患者数



## 表1. 新型インフルエンザPCR陽性症例の症状

K学園生徒・教職員の全陽性者  
(N=105, 2009年5月11日-5月31日発症)

38℃以上の発熱	94/105	89.5%	全身倦怠感	56/97	57.7%
咳	86/104	82.7%	頭痛	50/96	52.1%
熱感、悪寒、 38℃以下の発熱	66/99	66.7%	関節痛	32/94	34.0%
咽頭痛	68/104	65.4%	筋肉痛	19/96	19.8%
鼻汁・鼻閉	62/104	59.6%	下痢	19/96	19.8%
			腹痛	6/91	6.6%
			結膜炎	6/94	6.4%
			嘔吐	5/94	5.3%

表2. 新型インフルエンザ確定症例の症状  
M小学校(N=5, 2009年5月19日 -)

38°C以上の発熱	5	100%
咳	5	100%
熱感、悪寒、 38°C以下の発熱	5	100%
咽頭痛	3	60%
鼻汁・鼻閉	3	60%

全身倦怠感	4	80%
関節痛	3	60%
頭痛	4	80%
下痢	0	0%
嘔気	0	0%
筋肉痛	3	60%
呼吸困難感	1	20%
嘔吐	0	0%
意識混濁	0	0%
痙攣	0	0%
結膜炎	0	0%

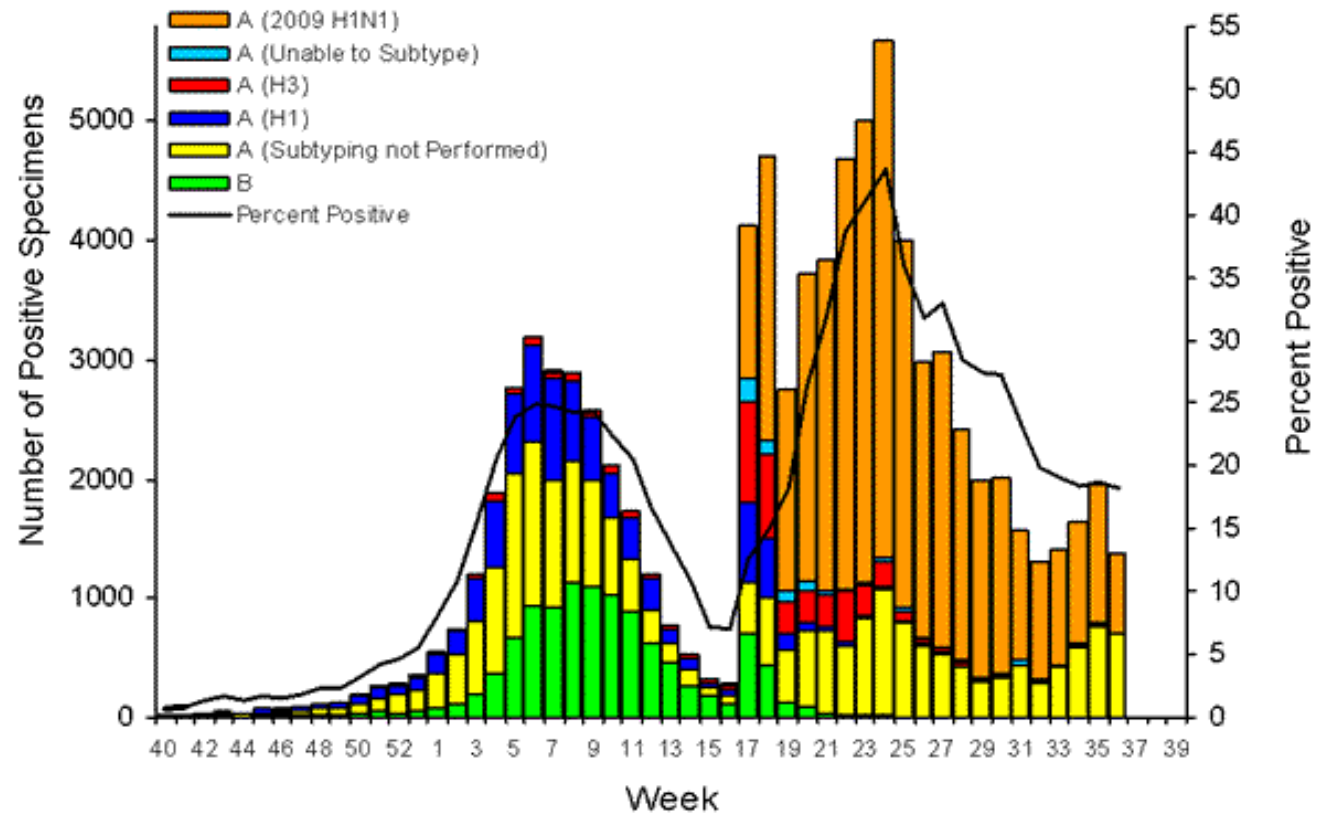


表3. 新型インフルエンザPCR陽性例での  
初回インフルエンザ迅速診断キット使用成績

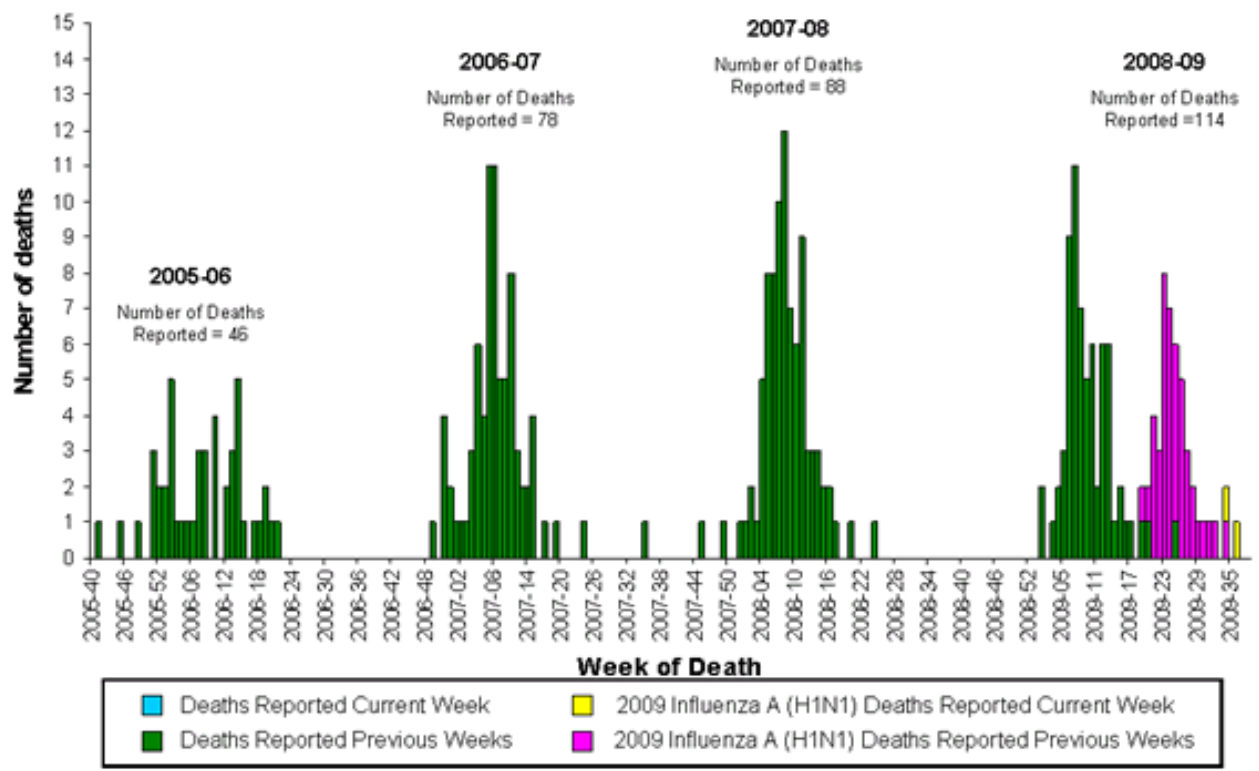
(N=35)

	発症日	1日後	2日後	3日後	計
陽性	9	14	3	1	27
陰性	3	3	2	0	8
陽性率 (%)	75.0	82.4	60.0	100	77.0

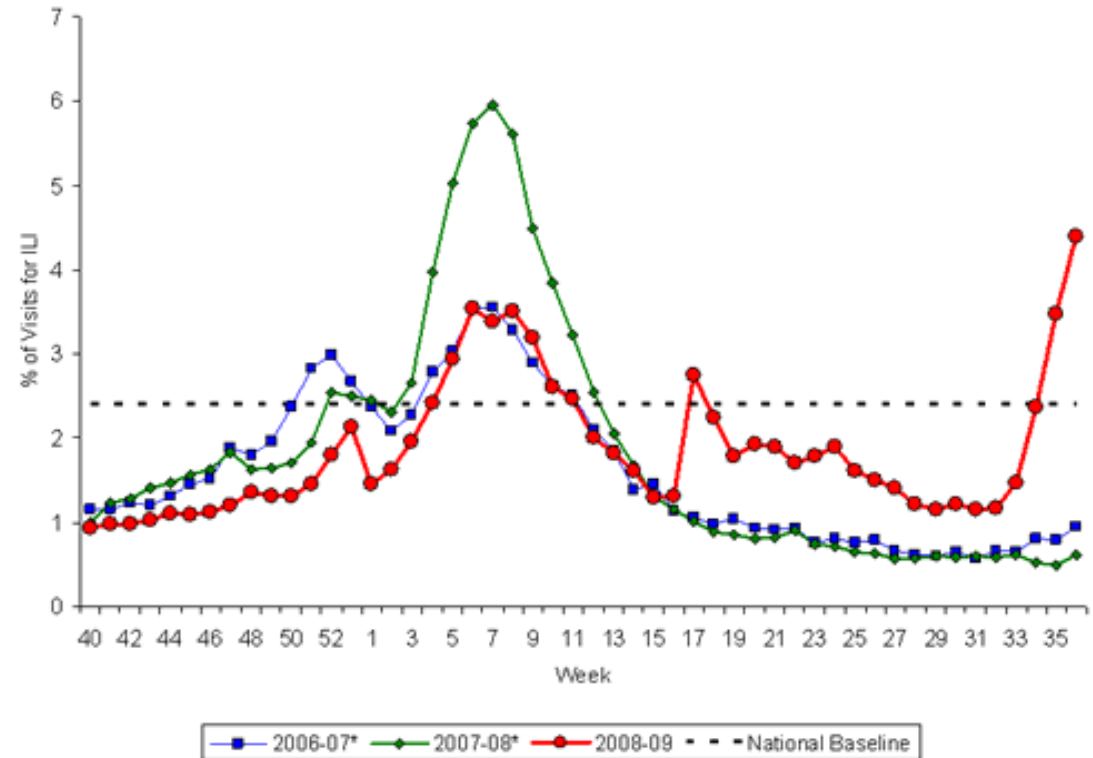
## Influenza Positive Tests Reported to CDC by U.S. WHO/NREVSS Collaborating Laboratories, National Summary, 2008-09



## Number of Influenza-Associated Pediatric Deaths by Week of Death: 2005-06 season to present

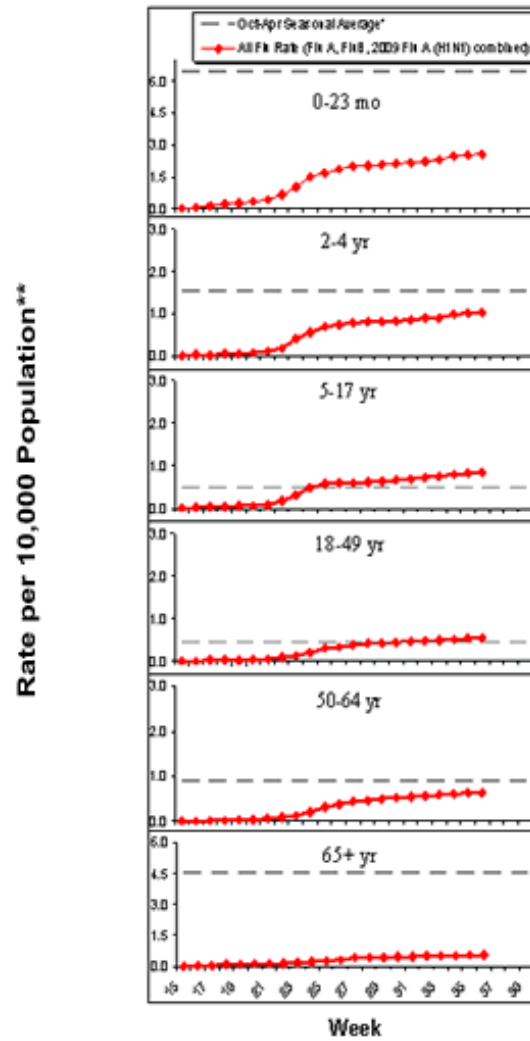


Percentage of Visits for Influenza-like Illness (ILI) Reported by the US Outpatient Influenza-like Illness Surveillance Network (ILINet), National Summary 2008-09 and Previous Two Seasons



\*There was no week 53 during the 2006-07 and 2007-08 seasons, therefore the week 53 data point for those seasons is an average of weeks 52 and 1.

### EIP Influenza Laboratory-Confirmed Cumulative Hospitalization Rates, Spring/Summer 2009



## USでの小児死亡36例の検討

0-6カ月	2例	(6%)
6-23ヶ月	3	(8)
24-59カ月	2	(6)
5-8歳	5	(14)
9-12歳	13	(36)
13-17歳	11	(30)

# USでの小児死亡36例の検討

## 医療上のリスク因子

• 神経発達障害	22	(61)
• 慢性呼吸器疾患	10	(28)
• 先天性心疾患	3	(8)
• 内分泌代謝障害	2	(6)
• 免疫抑制	2	(6)
• 何らかの高リスク	24	(67)
• 神経発達障害の合併	13	(36)
• 神経発達障害と慢性呼吸器疾患の合併	9	(25)

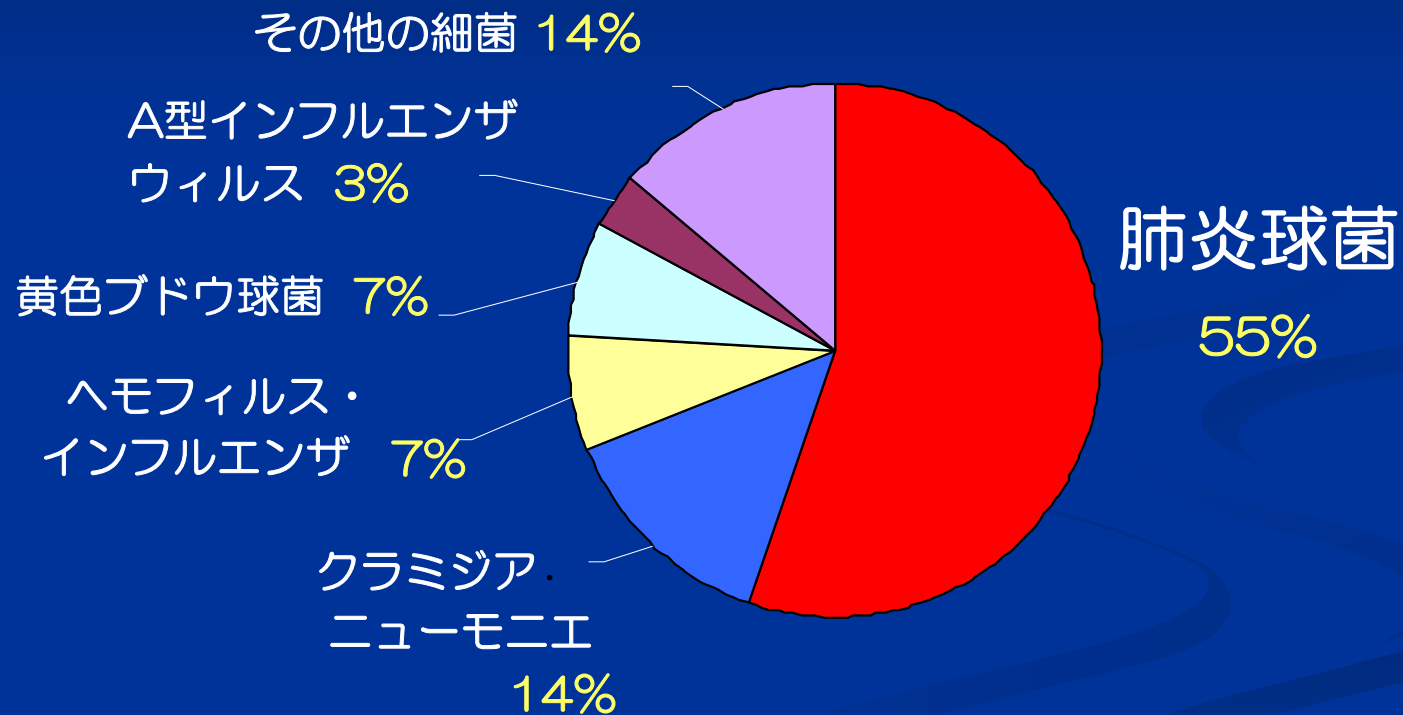
## 抗ウイルス薬の使用

• なし	12	(39)
• 発症2日以内	4	(13)
• 発症2日以降	12	(39)
• 使用開始時期不明	3	(10)
• 使用不明	5	(14)

## 進行性細菌感染症

• あり	10	(28)
• なし	13	(36)
• 検体採取せず	8	(22)
• 不明	5	(14)

# インフルエンザ流行時における肺炎の病原体



・出典：石田 直 化学療法の領域 20(S-1):129-135, 2004より作図



## CDC:緊急を要する重症化の徴候

1. 頻呼吸や呼吸困難
2. 蒼白、チアノーゼ
3. 水分摂取不良
4. 頻回の嘔吐
5. 意識あるいは意思疎通不良
6. 機嫌が悪く、抱っこされることを嫌がる
7. インフルエンザ様症状は治まったが、再び発熱し、咳が悪化

## 今シーズンのインフルエンザ

- 患者数は多いシーズンの季節型なみ
- 救急受診の急増
- 60歳台以下のILIの増加
- 妊娠後期の入院増加
- 10代患者での重症例の発生
- 高齢者の死亡例の発生
- 呼吸, 心, 代謝, 発達障害での死亡例
- 重症ウイルス肺炎と細菌性肺炎

# インフルエンザ対策

- 免疫されていない: 季節型と違う
- トリアージを含めた感染予防策の励行
- 欠勤者(1.5%)の増加に対する対策
- ILI患者の増加に対する対策
- 病床確保(小児, 呼吸, 産科, 救急)
- 抗インフルエンザ薬使用法: 耐性なし
- 新型ワクチン: 安全性の問題
- 季節型ワクチン: CDC, WHOは継続

# インフルエンザの診療

- 典型的な場合
  - 抗インフルエンザ薬を投与, 迅速不要
  - 鑑別診断を忘れずに
- 非典型的な場合
  - 迅速をしてもよい, 投与は結果による
- 考えにくい場合
  - 迅速はしなくもよい, 症状がそろってから
- 原則的に予防投薬はしない
- 家族に発症していても出勤して良い

## WHO:健康な人の感染予防

- ・ 口と鼻を触らない
- ・ 石鹸, 消毒液で頻繁に手を洗う
- ・ 感染源に触れた時は特に手を洗う
- ・ 具合の悪い人から離れる
- ・ 人混みを避ける
- ・ 換気を良くする

## WHO:患者の感染予防

- ・ 健康な人から1m以上遠ざかる
- ・ 咳エチケット
  - 咳, くしゃみの時に口, 鼻をティッシュで覆う
  - ティッシュはすぐに棄てる
  - 手を洗う
- ・ 換気を良くする

## WHO:マスクの正しい使用法

- ・ 口と鼻を覆い, 隙間を作らない
- ・ マスクに触れない
- ・ 触れたときは手を洗う
- ・ 湿ってきたら交換する
- ・ 使い捨てマスクは再利用しない
- ・ はずしたらすぐに廃棄する
- ・ 病院のマスクを盗まない